

2017年7月23日(日)朝10:10  
7月第4共同主日礼拝式説教

主の聖霊降臨節第8、転会式等  
日本アライアンス庄原基督教会

## 説教題：7つの金の鉢；第4の金の鉢:苦熱

聖書:ヨハネの黙示録 16章8～9節

＜口語訳＞

新約聖書401～402頁

ヨハネの黙示録 16章8～9節

＜新共同訳＞

新約聖書470頁

ヨハネの黙示録 16章8～9節

＜新改訳第3版＞

新約聖書493～494頁

ヨハネの黙示録16章8～9節

＜塚本訳＞

新約聖書810頁

主題:主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による  
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、  
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」とありますように、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通して(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録されたものと理解されています。
- ◇ヨハネ黙示録1章は、神の御子の再臨信仰と愛、2章～3章は、7つの教会への手紙、4～5章は、仔羊(羔羊)礼拝と大讚美、6～13章は、聖徒の戦い、神の恵みの啓示と審判、主の王即位と24人の長老の神礼拝、女性及び天使と龍(悪魔・サタン)との戦い、獣との戦い、14章は、小羊への大讚美、福音啓示と諸国への裁き、バビロン倒壊、神無視の人々への裁きと信仰者への忍耐の求め、殉教者の幸福と内住の御霊の声、再臨の御子の刈りと天の穀倉への格納、神の怒りの葡萄刈りと酒槽投入、15章は、金の鉢による神の最終裁き序曲、16章1節は、神の怒りの金の鉢の用意命令、2節は、腫物、3節は、血海、4～7節は、血水による獣と礼拝者への裁きです。

◇ヨハネの黙示録16章8～9節は、神の怒りの満ちた第4の金の鉢の注ぎと太陽の炎焼による地上の人々の死という裁きです。

本論；

◇本日、ヨハネ黙示録第16章8～9節から主の使信に思い・心をとめます。

◆黙示録16章8～9節；ヨハネは、第4の金の鉢の注ぎと太陽の炎焼による地上の人々の死という裁き施行を見ます。

◇16:8～9；塚本訳◆**第四金の鉢—苦熱**

「8 第四の天使がその鉢を太陽の上に注いだ。そしてそれは火で人を焼くことを許された。

9 そこで人々は(その)烈しい熱で焼かれた。しかし彼らは(却って)これらの災厄を支配する権を有ち給う神の名を汚した。そして悔い改めて彼に栄光を帰することをしなかった。」と、ヨハネは、**太陽炎焼**による地上の人々の死によって神の裁きを見ました。

◇8節；「**第四の天使がその鉢を太陽の上に注いだ**」結果、「**火で人を焼くことを許された**」。  
⇒「**太陽の炎焼**」は、神が「**火で人を焼くことを許された**」結果を地上にもたらしました。

- ⇒「**太陽**」の温度が一定に保持されていますので、地上の生物は、生きて行くことができますが、30%太陽の温度が上昇すると、地球上の水は、完全に蒸発するそうです。
- ⇒たとい水が残ったとしても、熱せられた水は、生物のいのちを蝕みますし、広島での原爆の熱が、多くの人々を一瞬にして、焼く尽くして、その姿を確認できない程にしたのです。
- ⇒**塚本 詔**は、「**苦熱**」という副題をつけていますが、「**太陽の炎焼**」は、人間だけでなく、すべての生物に「**苦熱**」による死をつきつけるのです。
- ⇒「**百億年**」という太陽の寿命が、「**神の怒りの金の鉢**」が、太陽に注がれた瞬間、太陽の役目が終わる程の大爆発を起こすのです。
- ⇒第1～第3迄の「**神の怒りの金の鉢の裁き**」は、地上に向けて注がれましたが、今や天に向けての注ぎです。
- ⇒「**天地は滅びる**」ことが、現実の預言のことばであることを思い知らされます。
- ⇒ある意味で、**神の恵み**から見れば、「**新天新地**」は、古きものが取り去られたのちに、**神の再創造**によって、**神の民**に与えられます。

- ◇9節；「彼ら」は、「これらの災厄を支配する権を有ち給う神の名を洗し」、「悔い改めて彼に栄光を帰することをしなかった」と、あります。
- ⇒「苦熱」を受け、苦しんでも、その「苦熱」を回避できた人々は、「これらの災厄を支配する権を有ち給う神の名を洗し」、「悔い改めて彼に栄光を帰することをしなかった」というのです。
- ⇒モーセによって、エジプト王パロの偶像礼拝への裁きのしるしが行われましたが、その災いが去ると、パロ王は、心を頑なににして、モーセが、**神の民**をエジプトから去らせるようにとの求めを拒否しつづけたのを思い起こさせます。
- ⇒私たちが、病気や事故に遭遇すると、**神の助け**を求めて、必死に祈りますが、苦難が去ると、また、**神なき生活・祈りなき生活**に舞い戻るのと同じです。
- ⇒「**神信仰**」は、「**神の恵み・神の贈物**」ですから、その心の思いが、**神**から人へ・自分中心の思いへ向く時、「**神の愛**」が、感じられなくなり、心に孤独感を憶えるのです。
- ⇒「**神なき生活**」は、「**心に暗黒・孤独**」を与える。

- ⇒**フランク**は、「**ロゴセラピー**」を实践した精神科医ですが、「**意味の意志**」を大事にし、「**人間を何よりも意味の実現を大切にする存在とみなす**」ことを求め、社会や環境への適応や同化を重視する「**人間存在**」と見なかったのです。
- ⇒**マルチン・ルター**も、「**神のことば**」を大事にし、「**神のことば**」を読んで理解すること以上に、聴き従うことを求めたのです。
- ⇒それは、「**神の思い**」を聴き取る時、「**神の思い**」を「**神の聖霊**」が、聴き従う者の心の思いに従って、共に生きて下さることにルターは気づいたからです。
- ⇒「**神信仰**」によって、「**神の聖霊**」は、「**聴き従う人の心に内住される**」からでもあります。これも、「**神の恵みの賜物**」と呼んでいるのです。
- ⇒**信仰のみ、恵みのみ、聖書のみ**という**強調**は、後の**カルヴァン**等の宗教改革者に受け継がれて行ったのです。
- ⇒「**太陽の炎焼**」は、「**神なき人々**」には、「**苦熱**」そのものです。併し、「**神に聴き従う**」ものには、「**神の恵み**」で、**新天新地**に繋がります。

## 結論；

- ◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」で、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通し(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録と理解。
- ◇ヨハネ黙示録1章は、神の御子の再臨信仰と愛、2章～3章は、7つの教会への手紙、4～5章は、仔羊(羔羊)礼拝と大讚美、6～13章は、聖徒の戦い、神の恵みの啓示と審判、主の王即位と24人の長老の神礼拝、女性及び天使と龍(悪魔・サタン)との戦い、獣との戦い、14章は、小羊への大讚美、福音啓示と諸国への裁き、バビロン倒壊、神無視の人々への裁きと信仰者への忍耐の求め、殉教者の幸福と内住の御霊の声、再臨の御子の刈りと天の穀倉への格納、神の怒りの葡萄刈りと酒槽投入、15章は、金の鉢による神の最終裁き序曲、16章1節は、神の怒りの金の鉢の用意命令、2節は、腫物、3節は、血海、4～7節は、血水による獣と礼拝者への裁きです。

- ◇ヨハネの黙示録16章8～9節は、**神の怒りの満ちた第4の金の鉢の注ぎと太陽の炎焼による地上の人々の死という裁き**です。
- ⇒「**神の栄光の御座**」での「**24人の長老**」と「**4つの生き物**」の**神礼拝・神讚美**は、「**主キリスト・イエス様が天のみならず、地の上・この世でも、王となり給うたことを感謝**」する結末を与えられています。
- ⇒地上に今生かされています私たちも、「**神礼拝・神讚美**」は、この幻のように実現することを信じて、「**主がこの世の王となり給うたことを感謝**」すると、告白しています。
- ⇒「**死**」という最大の苦難を思う前に、「**恵みの約束の神**」に思いを向けたいと、願います。
- ⇒ヨハネ黙示録は、「**苦難**」先にある「**神の救い**」という「**神の恵み**」を見せ、また指し示します。
- ⇒「**龍(悪魔・サタン)**」は、「**神のようになる**」目的を放棄していませんで、「**天では**」、「**彼らの(いる)場所が無くなった**」のですが、投げ落とされた地上で、「**神礼拝者・神信仰者**」を「**訴える本務**」を放棄することはしません。



- ⇒**神は、144,000人の殉教者の訴える祈り、を聞き、「獣礼拝者・龍(悪魔・サタン)礼拝者」とその誘惑に負けた人々に「神の怒り」をもって、復讐して下さるのです。**
- ⇒**決して、神の怒りに先立ち、「獣礼拝者・龍(悪魔・サタン)礼拝者」とその誘惑に負けた人々を裁かず、むしろ、その罪・咎に気づけるように執成しをすることが求められています。**
- ⇒**多くの信仰の仲間の殉教を目にして絶望的になっている老使徒ヨハネに「今から後主にあって死ぬる死人は幸福である」、「彼らはその労苦を休息む(ことが出来る)」、「その(為した)業が彼らに随いて行く」と天から声と神の内住の御霊の声が与えられて、大きな慰めを神は与えて下さったのです。**
- ⇒**「穀物の刈り取り」、「主にある死人の勝利」は、「雲の上に人の子の再臨」のより実現します。**
- ⇒**その実現の時まで、神の聖徒に求められるのは、「神信仰と忍耐」(黙示録13:10、14:12)です。**
- ⇒**神のご計画は、時が来れば、事は行われる(237頁)のです。**

- ⇒ 14～16節では、人の子なる神の御子が、**死人の勝利**の刈り取りをしたのに対し、17～20節では、**第5の天使、第6の天使**による**葡萄の刈り集め**は、「**神の憤怒の大きな酒槽** (さかぶね)」に投げ入れるという結末が語る通り、**神の怒りの復讐**が啓示されています。
- ⇒ 茲でも、**神の聖徒に求められるのは、「神信仰と忍耐」**です。私たちに**神**が期待されるのは、①**神礼拝に忠実**であり、②**神が創造した全ての人間が、神のみことばである聖書に聴く機会が与えられるように執成し祈ること**です。
- ⇒ **黙示録15:1**の**天の大きな、驚くべき徴**は、**神に反逆する者への「神による最後の災厄・神の憤怒」**です。それは、想像を絶する時間の経過を必要とする通告ですが、**神の預言**は必ず成就します。
- ⇒ **神の愛の律法・愛の福音**に聴き従い、**神礼拝**を通し、日々の聖書のみことばを静聴し、祈り、服従することを通して、「**神と隣人**」を愛し、「**最後の災厄**」から逃れる道を共に生きる**神の恵みの福音の道**をあかして生きたい！

◇15章2～4節では、**殉教者たちが、神の御座の前で、モーセが紅海渡渉を神の恵みとして神を讃美したように、申命記32章3～4節の聖句を用いて、神が罪から決別された存在であり、神が語られたことばを確実に実行されることを神讃美に託しているのです。**

⇒これから起きる大患難も、殉教者にとっては、**神が語られたことばに忠実であることを示される出来事として、神讃美の中身に含めているのです。**

⇒**神の裁き自体**を讃美しているのではなく、**神の真実**を告白しているのです。

⇒今日の教会に求められますのは、**神の真実**を告白する方法が、**神讃美**であるとともに、**神への執成しの祈り、神の赦しの恵み**が凡ての人々に与えられるようにと願うことなのです。

⇒「**神への祈り**」は、一般の人々からは空虚な働きに見えるかも知れませんが、「**主なる神よ、全能者よ、御業は大なるかな、驚くべきかな！**」なのです。

⇒どんな偉大な人間でも、**神の真実のわざ**を超えることはできないのです。

- ⇒ **黙示録15:5～16:1**では、「**天にある証の天幕の聖所**」が、「**開かれ**」、「**神の怒りの金の鉢**」が、「**7人の天使たちの手に**」渡されるのと、「**天にある証の天幕の聖所からの命令**」の声をヨハネは聴いたのです。
- ⇒今日の私たちは、「**神の怒り**」を「**金の鉢**」に盛らず、「**神の愛と赦しの福音**」を盛りたいと願います。
- ⇒ **黙示録16:2**では、「**神の怒りの酒杯・金の鉢**」が、「**獣と獣礼拝者**」に注がれ、「**神の酷い悪性腫物**ελκος」で打たれたことが、幻で示されていました。
- ⇒「**神礼拝者**」は、これを警告として聴きつつも、**黙示録5:8**で示されていたように、**神に反逆を繰り返す危機の時代**であるからこそ、「**金の鉢**」には、**恵みの神への祈りのしるし**である**香**を盛って、**神の至聖所**に向かう「**神の祭司**」の任務を果たさせて頂きたいと願います。
- ⇒ **黙示録16:3**「**血**αἷμα」による**神の裁き**、「**血の海**」は、「**死人(の体)から出たような血になり、海にいる生物は悉く死んでしまった**」ように、「**神なき世界・生活**」です。

⇒「10 二十四人の長老は(その座を立ち、)王座の上に坐し給う者の前に平伏して、永遠より永遠に活き給う者を拝し、彼らの冠を玉座の前に投げ出して言う

11 われらの主なる神よ、貴神は(凡ての 創造られたものから)栄光と栄誉と権能とを受け、(また凡ての創造られたものを支配し)給うに相応しい。万物を創造り給うたのは貴神であり、万物は貴神の御意によって存在し、また創造された(のである)からである」と、告白した「天の礼拝の讚美」に与りつつ、地上にある「神の教会の礼拝、讚美」にも与って、心の本質を「裁きの心」から「神聴従、神讚美の心」へ日々造り変えていただきたいと願います。

⇒ヨハネ黙示録16:4~7では、16:2での地を支配する獣・支配権と16:3での海を支配する獣・偽預言者・偽教師への神の裁きを受けて、龍(悪魔・サタン)への神の報復が鮮明にされ、16:10~11の龍(悪魔・サタン)自体への神の裁きの準備の役割が啓示されています。

- ⇒最終的**神の裁き**は、天から排除され、地と海、すなわち、人間が生活する場で、再度、人間を誘惑して、生き延びようとする**龍(悪魔・サタン)**へ挑戦される**神の義**の宣告実現です。
- ⇒その後には、**龍(悪魔・サタン)**による「**神なき**」生活への誘惑は去り、「**神の義**」に生きることが、生きる希望となる「**神の国・義の生活**」が、「**新天新地**」として実現するのです。
- ⇒日々の**個々人の神礼拝(デボーション)**や**主日ごとの神礼拝**が無駄でなかったことが明らかにされる時でもあります。
- ⇒**マルチン・ルター**は、最後の死の床で、**詩篇 31:6**をラテン語で**繰り返し口にした**と記録されているようです(**小田部著9頁**)。
- ⇒彼ほど、**龍(悪魔・サタン)**を意識した宗教改革者はいなかったのではと思うほどで、ある意味で、伝説のように語り継がれています。
- ⇒彼が復讐心ではなく、**神の言による平安**を心に抱いていたことが、**その神信仰に学ぶ者**にとっては慰めです。
- ◇**ヨハネ黙示録8～9節**では、「**神の怒りの金の鉢**」は、**天空の太陽**に注がれました。

⇒「**太陽の炎焼**」が起り、地上の多くの人々、特に、**神なき生活者**への裁きは、「**火で人を焼くことを許された**」とある通り、**神の裁き**がとしてであることが明確です。

⇒併し、死を免れた「**彼らは**」、「**これらの災厄を支配する権を有ち給う神の名を洩し**」、「**悔い改めて彼に栄光を帰することをしなかった**」とあります。

⇒「**太陽の炎焼の苦熱**」が、どんなに厳しくても、**神なき人々**にとって、「**苦熱**」がされば、**神なき生活**へ舞い戻ることを知らされます。

⇒これらのことから**神の裁き**から救われるためには、「**神のことばに聴き従う**」ことの大切さをしっかり受け止めたいと願います。

⇒**神信仰**は、**神のことば**である**聖書**に聴き従う人々の**神への思い**を**神**が受け止め、その思いの中に**神の聖霊**を内住させて下さるとい**う神の恵みの賜物**が与えられる結果を得る大事な事柄です。

⇒「**太陽**」は、今は、多くの地上の生物にとって、欠かすことのできないものです。

⇒**神の恵み**を**無駄にしない生活**をめざしたい。